

自主防災組織がアクション開始

周南市の各地区の自主防災の組織率は88%で、ほとんどの地区で取り組んでいます。夜市地区にも当然あります。

では、実際に大雨や台風などの災害に、どのように対応すればいいのか、具体的には何も決まっておられません。年に一度くらいの防災訓練を実施する程度のことでした。

そこで、夜市地区では、社会福祉協議会、自治会連合会、コミュニティ推進協議会が連携をして、「そのとき どうする」ということで、災害に対して具体的な動きを検討しはじめました。講師には、NPO法人ぼうぼうネットの事務局長である山崎隆弘氏をお迎えしました。

第1回目は7月8日に行われ、地区内の浸水や土砂崩れなどの危険箇所や避難場所、要支援者の有無などを地図上で、確認しました。

第2回目は8月5日。この日は実際に猛烈な台風が大雨を伴い、周南市付近に上陸の恐れがあるとの想定で、そのとき自主防災組織は、どのような行動をとったらいいかを、時系列で考えてみました。情報収集や広報活動、避難準備などときばきと判断していかねばなりません。

第3回目は、自治会長さんや自治会の防災担当役員さん方に参加していただき、各

自治会での災害に対する活動の勉強会を予定しています。そして、最終的には夜市地区防災計画を作ることにしています。



↑【上写真】防災図上訓練DIGを演習する住民のみなさん

公民館文庫を読もう

一路 上・下巻

浅田次郎(中央公論新社)

やじのま通信

平成27年
9月号

発行者：夜市地区
コミュニティ推進
協議会

☎ 0834-62-2707
(夜市公民館内)



【右上から順】①参加児童と支援した地域のみなさん②もらい湯も行儀よく③布団の準備も自分たちで④食事の用意も協力してやりませす⑤スイカをみんなで分けました⑥洗濯物も自分たちで干しました⑦地域のみなさんが宿題を見守ります



⑤



②



⑥



③



⑦



④



江戸時代の参勤交代の制度を知っていますか。

日本史の教科書では、幕府は大名の妻

を人質として江戸に住ませ、大名は、国と江戸を行き来することで散財させ、大名の力を弱めることを目的にしたというようにかかれてあつたと思います。

この物語では、国許から江戸へ行くのに、江戸到着の予定の日時に遅れてはならないのです。なぜなら、江戸行きは行軍と同じで、戦にはせ参じると同様であらねばならないのです。そのために、この参勤交代を仕切る武士がいたこと。その武士のことが書かれています。

彼は、大名行列の先回りをして、宿の手配や道中の安全、川を渡る方法など、とにかく何でもこなすツアールコンダクターのようなものです。殿様はこの武士に全幅の信頼をおきます。

そんな律儀で、まじめな武士の物語です。

コミュニティ活動の予定

11月15日(日) 第19回やじの文化祭
11月29日(日) 10時00分〜15時00分
道の駅ソレイネ周南いけいけ大収穫祭

やじの通学合宿開催

共同生活は我慢しなければなりません。が、みんなで力を合わせることで連帯意識が生まれます。団体行動は自分勝手なことではできませんが、一人ではできない大きな仕事をすることができます。そんなことを夜市小の3・4年生に体験してもらいたくて、学校に行きながら共同生活をする「やじの通学合宿」を企画しました。

公民館で学校の宿題をするとき、3年生だけではワイワイガヤガヤ騒いで、勉強にならなかつたけど、4年生が帰ってきて、「静かに」の一声で、みんな静かになって宿題がはかどりました。

夜中に目が覚めて、自分の家が恋しくなつて、少しだけ涙が出ました。班ごとの活動で、当番は食事の準備もしました。

公民館には風呂がないので、温泉に入ったり、近所の家の風呂を借りたりもしました。

そして、3泊4日の通学合宿は、お手伝いいただいた地区の有志の皆さんのおかげで、無事終えることができ、少しだけたくましくなつた3・4年生を見るのができました。

反省会では、来年も是非実施したいと、みなさんの強い思いが一致しました。

コミュニティ総会開催

5月13日、夜市公民館においてコミュニティ総会が開催されました。会長挨拶の後、平成26年度の事業報告、決算報告に続き、平成27年度の事業計画案とそれに伴う総額約160万円の予算案が承認され、コミュニティの事業が本格的に動き出しました。今年度の主な事業

新規

- ・ やじの通学合宿
小学3・4年生を対象に、学校に通いながら公民館で合宿をするというもの。共同生活を通じて、協調性や自主性を養い、がまんすることを自覚することで、生きる力を醸成することを目的とする。
- ・ 地域防災計画（防災マップ）策定
自治会連合会、社会福祉協議会、民生委員協議会、消防団などと協力して、夜市地区の防災体制の強化や避難マップ作りを行う。
- ・ 夜市地区史跡案内看板製作
夜市公民館の史跡案内看板を新設する。
- ・ その一環で、夜市 Discovery project「ウオーク大会」を体育振興会と共催で実施する。周南市ふるさと振興財団の補助事業
- ・ やじうま祭りの復活
年末に夜市の特産品の品評会や販売を行い、地区内外に夜市の存在感をPRする。

見守り隊は現在18名で、月に一度の小学校の集団下校のとき、各方面へ帰る児童たちを見守るなどの活動をしています。また、小学校の不審者に対する避難訓練にも参加しています。

そのほかにも普段の登下校時や子どもたちが外で遊んでいるときにも、各自で子どもたちの安全を見守っています。

今年度は隊員数を確保し、更なる活動の充実を図りたいと思います。

家庭内おはよう運動の推進

今、夜市小学校では、児童のあいさつ運動に取り組んでいます。

特に6月は「家庭内おはよう推進強化月間」でした。

これは、まず社会の最小単位である家庭の中で、朝一番のあいさつである「おはよう」を言うというもので、これさえ言えれば、後は誰でもどんな挨拶でもできると考えられて実行されたものです。この朝の「おはよう」を突破口にして、家族の中で会話が弾み、楽しい一日を迎えることができるでしょう。

これを夜市地区コミュニティでも取り組んで生きたいと思えます。夫婦の間で「おはよう」が言えていますか。照れ臭がっていますか。そんなこと言わなくても阿吽の呼吸

- ・ 花と美化事業
夜市川・的場公園の草刈清掃作業を行い、環境保全をする。
- ・ ふれあいの旅
一泊旅行を企画する。

コミュニティ事業は、地区住民一人ひとりが主役になる事業です。力を合わせて、楽しく明るい町を作りましょう。



→【右写真】コミュニティ総会の様子

大丈夫なんて思っただけじゃいけません。あえて口に出して「おはよう」を言いました。親子の間で「おはよう」を言っていますか。朝おきて出かけるまで、無言を通していませんか。

まずは、家庭内で「おはよう」を言い合いました。そして、家庭から波紋の輪がどんどん大きくなるように地区全体に広がり、明るい夜市地区を作りましょう。



夜市小児童は

こんなこともしています

7月9日、夜市小の4年生が、夏休みを前に、地区内に危険なところはどこか調べて歩き、危険箇所を手作りの地図の上に書き込んでいきました。そして、それを保護者や地域の人たちの前で発表しました。

子どもが入りやすく見えにくい所は危険。草が茂っていたり、放置自転車やごみが捨ててあるところは、人の関心が低くて危険。

国道の下の通路は危険とし、落書きがあることも指摘していました。子どもたちの視線での危険箇所点検に対し、私達は少しずつでも改善していかなければなりません。

子ども見守り隊活動開始

夜市地区子ども見守り隊と小学校児童との対面式が夜市小グラウンドで、5月20日に行われました。これは小学校児童の集団下校にあわせて行われたものです。

子ども見守り隊の隊員の皆さんが、ひとりひとり自己紹介した後、夜市小の児童たちは声をそろえて「よろしくおねがいします」と元気よく挨拶をしていました。



→【右写真】対面式の様子



↑【上写真】発表会の様子

←【左写真】子どもたちがまとめた夜市各地の危険箇所マップ

